

ニュージーランド南島ドライブ ～車イスでの旅行

今回は、2010年1月に妻と二人でレンタカーを運転して周った、ニュージーランド南島旅行で車イス利用者として気づいた点などを紹介させて頂きたいと思います。

車イスが常時必要な場合「海外旅行」となると、大手旅行会社が主催するツアーなどに参加したくても、移動や体力の問題などもあり断念する方も多いと思います。

ツアーでなく自分で旅程を企画して宿泊先や切符も自分で手配すれば、自分のペースで旅行ができます。

また、現地の旅行会社に相談して情報を提供してもらったり、宿泊先などのパーツを手配してもらったりしても、同じく自分のペースで旅行する事が出来ます。

日本語の通じない海外の個人旅行は、不安もありますが、少しの勇気があれば、楽しい体験が沢山できて、計画を無事達成できたときの満足感は格別です。

これからニュージーランドを旅行される車イス利用者の方の参考になればと思い、今回お世話になった Global Net New Zealand 様に寄稿させて頂きます。



テカボ湖



どこに行ってもヒツジだらけ

紹介するのは、個人的な感想であり、障害の状態や体調など、気候や年月の経過により必ずしも同じ旅行ができるというものではないということをご了承下さい。

旅程

クライストチャーチ到着 - テカボ - テアナウ - クイーンズタウン -
ダニーデン - クライストチャーチ

ニュージーランドまでの飛行機

チケットは自分でニュージーランド航空のウェブサイトから手配。
事前に航空会社へ車イス利用を連絡（寸法や重量も）

ニュージーランド航空のWEBサイト参考（チケット購入画面にも申告欄あり）

チェックインの際に、車イスをカウンタで預け空港の物に乗り換えるか、飛行機に乗る直前まで自分の車イスが良いか？機内での移動は車イス（機内用）が必要か？を確認される。（行きも帰りも）

車イスの受け取り

クライストチャーチ空港では、車イスはボーディングブリッジで受け取れず空港の車イスに乗せられたまま、空港職員に連れられ入国し、バゲッジクレームで預け荷物を受け取り到着ロビーへ、Global Net New Zealand スタッフの田代さんがここでお出迎え。

ここまで来て自分の車イスを受け取ることが職員に伝えられていない事が判明し、田代さんに、車イスを受け取る必要があることを職員に伝えてもらい解決。到着早々少し焦りました。

レンタカー

事前に、手だけで運転できるハンドコントロール付の車両を、Global Net を通じて予約。コントローラーを左右どちらにつけるかも事前に連絡。ハンドルノブは日本から工具とともに持参。

レンタカーのチェックアウトも田代さんにサポートしてもらい、荷物を積み込み新車のトヨタカムリに乗ってギクシャクした運転で出発！！



レンタカーは右ハンドルのトヨタカムリ

エア・サファリ

初日の16時に Global Net を通じて予約した、テカボ湖発着のマウントクック遊覧飛行に向けて車を走らせるも、道を間違えるなどして時間までに着けそうにないと感じ、Global Net のオフィスへ電話して相談したところ、エア・サファリに確認をとって折り返し連絡を下さいました。本日のフライトは雲が出ているので「中止」とのこと、更に翌朝のフライトに変更して頂けたとのこと、大変助かりました。



エアサファリ

翌日のフライトですが、無事晴天で素晴らしい眺めで感動の連続。スタッフの対応も自然で、楽しいひとときとなりました。

飛行機への乗降について

飛行機の横まで車イスで行って、飛行機のドアに一番近い席に乗れるように、スタッフ数人がアシストしてくれました。私が乗ったのは一番小さなタイプでしたが、3段くらいのハシゴを上る必要がありました。

飛行場

段差なし、車イス対応トイレあり



機上から見える氷河

ミルフォード・サウンド

シーニッククルーズを Global Net を通じて予約。

早く到着したのでロビーで待っていると、スタッフに声をかけられ一番最初に乗船。

スロープが船まで設置されていますが、室内に入るのに段差を乗り越える必要がありました、スタッフ数人でアシストしてくれたので、特に問題なく乗船。(降りるときは最後、船外へ出るのは階段があるため難しく室内からの観覧となります)

乗船場

段差なし、車イス対応トイレあり、車イスマークの駐車場あり(乗船場すぐ横)



ミルフォードサウンド乗船場

スカイラインゴンドラ - クイーンズタウン

予約なしでOK。

乗降の際は、スタッフがゴンドラを停止させてくれます。車イスから降りて機内のイスに座る必要があります。車イスは隣のゴンドラに積み込んで運んでくれました。

ワカティブ湖とクイーンズタウンの町が見下ろせる、素晴らしい眺めです。

乗り場



展望台から見えるクイーンズタウンの街

段差なし、車イス対応トイレあり、車イスマークの駐車場あり

展望台

段差なし、車イス対応トイレあり

ホテルについて

5箇所のホテルをすべて Global Net を通じて予約。

「ハンディキャップルームでなくても良いので、入り口、ホテル内に段差がないところを希望します」とお願いをしました。

どこも特に問題なく宿泊できました、ダニーデンとクイーンズタウンのホテルはハンディキャップルームでした。クライストチャーチのホテルは部屋も広くて使いやすく街中にあり移動も楽でした、車を入り口でスタッフに預けて都度出し入れしてもらう必要がありましたが、日本人スタッフがいて荷物の積み下ろしもアシストしてくれて助かりました。

テカポとテアナウは人口が少なくホテルの数も多くないためか、他の町に比べると小さなホテルでした。

トイレなど

車イスで利用できるトイレは日本よりも普及していると思います、ドアや手すりなど設備の良さは日本のほうが充実していると思います。

市街地でも田舎でもツーリストインフォメーションがあり、そこには清潔な公衆トイレが設置され、車イスでも利用できるようになっていました。

また、ガソリンスタンドはコンビニが併設していて、そのトイレも車イスでも利用できるようになっていました。

旅行中トイレを探し回る事は一度もありませんでした。

ヨーロッパでは公衆トイレはなく、駅や美術館、デパートの車イスで使えるトイレを探し歩くこともあり大変でした。

移動について

今回の旅行は、ニュージーランド南島の自然を満喫したいということで、公共交通機関ではなく、レンタカーでの移動を選択しました。

大手レンタカー会社ではニュージーランドでも「手動運転装置付」の車種もあることを事前に問い合わせ確認できたのと、交通ルールも日本とほぼ同じで、海外での運転も初めてではなかったので大丈夫だろうということで、今回はレンタカーでドライブ旅行することにしました。

7日間で2000kmを走りましたが、妻と交代で運転したので、それほど疲れることはありませんでした。

準備について

車イスで海外へ行くときは、飛行機での減圧や道路事情も日本とは違うためパンクのことが気になり、小さな手動エアポンプとパンク修理キットはいつも持参しています。外国では、タイヤのバルブの形状が国によって異なるため、修理をお願いしてもできるかどうか不安があります。

幸い今までにパンクしたことはありません(国内旅行ではパンクして自転車屋で修理してもらいました)。



押すとブレーキ下げるとアクセルの手動運転装置 ハンドルノブは持参